

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

国府の里

日付 平成 20年 12月 5日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このグループホームの一番良いところ、利用者も認めるのは、毎日の食事の美味しい事である。「ここは楽しそうな所ですね!」と利用者に声を掛けると「あんた、ここに来たらもう帰りとうなくなるよ」とニコニコしながら利用者が答えてくれる。「明るくて、皆よく食べて、元気で仲良くし、とても楽しい」と職員達も口を揃えて言う。このホームの食事は毎食、旬の食材を使って一汁三菜が基本で、毎日、肉や魚と野菜等バランス良いメニューで調理をしている。ここまではどのホームでもよくある事であるが、このホームは津山市を中心に高齢者や身体障害者や知的障害者等のケアを広く運営している篤園の系列であり、理事長は農業を広くされており、利用者には美味しい食事を提供するようという方針を持っている。米や野菜、果物等提供があり、関係先の食材業者からも新鮮な魚や肉等を供給してくれるそうだ。今日も実に美味しい鯖がおかずに出ている。このような食材を見ながら、職員はその時々で献立を考え、調理して、利用者へ提供する。今日も先程持って来てくれたホウレン草が昼には出て来て、皆、美味しいと言って昼食を楽しく食べた。

このホームには、珍しい畑の作物が玄関やリビングルームに置かれている。今日は玄関にバカでかいヘチマが置いてあった。畑に出来た大きな冬瓜や豆等も見られた。今は柿の季節で、干し柿やあわせ柿を作っていた。柿の暖簾が秋の風情を味わせてくれた。

健康にも重点をおき、特に水分摂取に気を配っている。一日の摂水目標を基本的に1500CCとしており、きちんと守るよう努力している。水分は認知症にとっても、健康にも欠く事の出来ない要素で、利用者の食べる、水分を摂る、排泄をする事等、生きる為の重要点を守っている。

介護計画の中にホームの介護方針を記す項目がある。利用者本人や家族のホームでの生活の意向を受け、利用者の認知症の状態や疾病等の状況を把握した上で、このホームのどんなシーズを提供して、一人ひとりの介護方針を決める項目であるが、この項目を「身体的」「精神面」「家族の意向」「体調面、精神面(医療面)」の4つに分けて記載しているホームは、ここで初めて見た気がする。しっかりとしたケアの出来る根拠とも言える。

“笑いあり、涙ありの大家族です。どうぞよろしく”とこの地域に挨拶の回覧板を廻して、地域の人にこのホームの事を知って貰いたいと努力している。利用者や職員、そして家族が共に過ごしている事を心から楽しんでいる実感が湧くホームである。

**特に改善の余地があると思われる点**

介護計画と記録類が日々の業務に連動するよう、日常実施している介護項目の実施が確実にモニタリング出来るような方法を考えてみて欲しい。モニタリングをしっかりとすると、逆に介護項目をもっと明確な目標にすると良いと感じるだろうと思う。

利用者の毎日の状態や様子を介護・生活記録に残しているが、利用者の言動や行動を具体的に拾い上げて記述すると、利用者の生活史にもなるし、職員のケアの教材にもなるだろう。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：設立当初にホームの運営理念を作成した。その理念を職員は理解し、日々のケアやサービスに生かしている。家族もその理念を知って、板に彫刻してくれた。ホームのリビングに掲げている。“笑いあり、涙ありの大家族です”とホームの目標を作り、地域に挨拶の回覧板を廻して、ホームへの理解と協力をお願いしている。</p> <p>2、全体的に見て…：「利用者さんは皆優しい。よう頑張ると、と言葉を掛けてくれたり、毎日思いがけない発見があり、逆に利用者に助けて貰っている。これがあるから、この仕事は辞められない。利用者さんがいとおい」と管理者は言う。利用者に「まあ、あんたの言う事じゃけん信用しよう」と言って貰える関係が構築出来つつある。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：住宅地の中に狭い敷地ではあるが、2つのユニットが縦に長く並んでいる。2つのホームは通路で繋がっており、1ユニットの端にウッドデッキがあり、そこから母体の保育園が見える。今日は保育園のお祭りで園児が御輿を担いでホームの傍まで来てくれた。利用者と園児が一体となって楽しんだ。このウッドデッキを両ユニットの利用者が楽しみ、交流している。利用者もこのホームに馴染んで、利用者の生活動線がこのホームの空間を形成している。特に改善の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：外観から見ると、ホームの内部は木造りの暖かさがあって、リビングルームは食卓ゾーンと畳のゾーンがあり、利用者は仲の良い人同士でこの空間を寛ぎの場所として活用している。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアサービスについては各項目の中から重点項目を定め、改良を積み重ねていく。特に介護計画や記録、食事、水分、排泄等、健康の基本を重点的に毎日の生活の中でより良く、より元気に、より楽しく”をモットーに生活の質の向上を高齢化や重度化の中で具体的に課題を持ち続けているので、業務の改善の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームに入居してくる利用者は、不安な気持ちと自分自身の自信を失っている人が多い。職員のケアや声掛けによって、徐々にホームの生活にも馴染み、利用者同士の交わりも出来るようになって、何も出来ないと言っていた利用者が徐々に安心感を増し、褒められたりして自分にも自信を持って、元気に明るくなって生活出来るようになった人が多い。そして、このホームの美味しい食事にも食欲を増して、人の世話までするようになり、まさに“人間回復”を実現している。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：母体が近所にある保育園であり、毎月園児がホームを訪れ、利用者と一緒に交流して楽しんでいる。その園長である代表者もホームをよく訪れ、職員や利用者共馴染み深く、理解している。月に1回、他のホームの管理者も交えて、代表との会議もあり、意思疎通があるので、運営に関しては問題ない。</p> <p>2、全体的に見て…：運営推進会議は地域の町内会長や民生委員・市の高齢者介護福祉課職員と家族代表が参加し、母体の代表とホームの管理者が加わって2ヶ月に1回開催して、色々と意見交換している。町内会にも加入し、溝掃除等の行事にも参加して協力している。ボランティアの人も来てくれ、琴や尺八等、楽しませてくれている。利用者は運動会・さつまいも堀り・お涼み会・餅つき・クリスマス会等、保育園との交流が活発である。これからは地域の行事にも出かけて、交流を深めたいと考えている。</p>		